るが可ならむ

2325と2330は同一種に對する學名なれば何れか一つを削除すべし

2332ヤノネシダに對しては從來此の名を充てたれど非にして該學名の種は本邦には産せずと謂ふ學者あり而て邦産のヌカボシランがPolypodium Buergerianum Miqに適合すと謂ふ

2335の和名はヤリノハラン又ヤリノハクリハランと稱するを普通とす

2342b.にイハヤブソテツ又メヤブソテツの名を與ふべし

2352オホバノヰノモトサウはPteris cretica L.に配したる名なり

2356を改てPteris vittata L.となすべき事

2361a.種名中 ruta は rulata の誤り

2364a.にオホキノボリシダの和名を與ふる事

2366種名の末尾にtaを附加して lata とすべきこと

以上は唯だ目錄に掲載の分のみに就き示したり

臺灣菌類資料（第七）

澤田兼吉

三六 新屬Uncinulopsis.

粉病菌科(Erysiphaceae)の專門家E. S. Salmon氏は西暦一九〇五年Annales Mycologici第二卷第六號にOn the variation shown by the Conidial Stage of Phyllactinia coryleaと題しPhyllactinia corylea菌の分

蓋しDryopteris と稱する屬名と Nephrodium 屬とは同等の意義に於て用ゐらるゝものなれども前屬名は後屬名よりも早く創設せられたる處より今日の學者は一般に前屬名を用ゐ後屬名を捨てたり Aspidium 屬名も當今は狹き意味に於て存在し廣義の意に於ては之れ又た Dryopteris を用ふ蓋し意義の廣狹に程度、範圍の限定は困難にして具體的説明は其の煩に堪えざれどもDryopteris屬種に比して形態構造に趣を異にするAspidium屬のもの、一例を擧ぐればアミシダの如きものは乃ちAspidiumを代表して存立す

2279の種名中 xat の t は l の誤り

2284の記名者はSpring氏にして乃ちSprと改むべき事

2288にウラジロキジノヲなる和名を附加する事

2289並にPlagiogyria Matsumurae Hay.は共に從來用ゐられし名にして新にPlagiogyria falcata Copelを用ゐるべし

2291を改てPolybotrya marginata Blumeとなす事、蓋しP. appendiculata Blが本島に產するか否やは今遽に斷言し難けれども由來此の名を充て來りて種は其の然らざるを發見するに至れり

2294の學名はヤノネシダに對する名にあらずしてヤノネシダの最新名はPolypodium semihastatum Bak, var. longifrons Takedaなりと謂ふ

2298に於けるヤブレガサウラボシとは Dipteris conjugata (Kaulf.) Reinw＝Polypodium Dipteris Blumeに充てたる和名なり

2308と2328とは同一種に對する學名に付何れか一方を削除する事

2309の學名に對しオホノキシノブの名を與へしは妥當ならずオホノキシノブはホテイシダ (Polypodium japonense Mak) の異名に付き之れと混同の虞あれば之れにシマ又はタイワンの語を冠せしむ

大正五年五月發行

に納めんとす

（甲）分生胞子時代

擔子梗及分生胞子は必ず葉裏に生ず圓狀に擴がり狹きは數ミ、メ、より廣きは全葉面を占むるに至る顯著なる白粉狀にして普通粉病菌に見る如く一面に一樣に擴がれると異り無數の密接せる群の如き見えをなす葉表は黃變す、丁寧に此白粉を取りて檢すれば無數の擔子梗と菌糸と胞子とを見る此菌糸は表生卽ち寄主の表皮上を匍匐し無色にして隔膜を有し分枝し直徑五—七ミユー あり、擔子梗は表生菌糸より垂直に分出せられ直立す菌糸よりの分出點より僅か上方に於て普通螺旋狀となり始め數回旋回す其旋回方向は時計の針と反對なり數回旋回せる後眞直に伸長す一乃至數箇普通三箇の隔膜を有し長さ七五—二三〇ミユー 直徑六—七ミユー あり其頂に分生胞子を單生す、分生胞子は無色單胞にして普通棍棒狀卽ち頂端に太くして基部に漸細し頂端圓頭基部切斷狀なれども又反對に基方に太くして頂端鈍頭をなして卵狀紡錘狀をなすものあり頂に乳頭突起を有せず微細なる顆粒體を充し大さ四九—九二×一五—二二ミユー あり死せるものは淡黃色を帶ぶ發芽管にありて發芽す

更に內生菌糸及吸器に就て調ぶるに內生菌糸は表生菌糸より分たれ一氣孔を通じて普通一本宛組織內に入れり氣孔より穿入するや否や分枝し細胞子空隙を迷走し葉の組織內殆ど總ての場所に廣がり細胞膜を貫きて吸器を出す病葉の斷面を弱度の顯微鏡にて窺ふも內生菌糸の發育せる部分は他の部分より混雜せる見えをなす程充分なる發育をなし從つて多數の吸器を出し恰も露菌類の內生菌糸を見ると等し、內生菌糸は僅かに隔膜を有し分枝し細太不同無色にして直徑四—七ミユー あり而して海綿狀組織のみならず柵狀組織にも及べり此菌糸が細膜に接觸せる場所に於て小圓形なる光輝ある部分生ず側方より之れを見る時は稍々半球狀に腫上れり是れ菌糸が吸器を出すべく細胞膜を軟化せしめたる部分にして普く粉病菌科の種類がなすと等しく其中央に一小孔を穿ちて細胞內に吸器押入す、吸器棍棒狀又は

28

生胞子時代には種々の形態を有するものあることを記し而して分生胞子の棍棒狀をなせるものを本種となし他に三變種あり即ち分生胞子の稍々多角形をなせるものをVar. angulataとなし擔子梗の厚膜にして剛毛狀をなせるものを Var. rigida とし擔子梗の基部螺旋狀をなせるものをVar. subspiralis となせり

余は大正三年三月出版臺灣總督府農事試驗場特別報告第九號中に分生胞子時代より觀たる粉病菌科と題し北海道及臺灣產粉病菌科に屬する種類を分生胞子時代より觀察して屬の特徵を擧け又二十三種の分生胞子時代を記載し且つ各屬の系統をも記せしか其內臺灣より得たるエノキノ葉上に寄生する Phyllactinia 菌は擔子梗の基部螺旋狀をなして Salmon 氏の P. corylea var. subspiralis と符合するものなれども P. corylea 菌とは著しく其趣を異にするを以て其變種となすよりは寧ろ一の種として獨立せしむるの優れるを主張し變種名を種類名に採用し P. subspiralis なる新名を以て呼べり

大正五年五月發行

余が記述せし當時は分生胞子時代のみ發見したりしを以て子囊胞子時代は如何なる形態をなすものなるや明かならざりき、臺灣に於ても總て粉病菌科の菌類は子囊胞子時代を形成するものなるべけれど儘力を重ねて遂に是等を發見し得ざること多く或るものは北國地方の如く容易に其形成を見るも或るものに於ては之れを發見すること頗る困難なり、本菌も亦其一にして數年を通じて之れが子囊殼を得んとせしも遂に其目的を達し得ざりしが大正三年十二月藤黑與三郎氏は只二葉の上に十數個の子囊殼の形成せられたるを發見せり、之れを檢せしにUncinula屬の特徵を有する子囊殼なりしに驚かされたり

分生胞子時代に於ては內生菌糸を生ずることによりて亞科 Phyllactineae に納むべきものにして子囊胞子時代は疑なき亞科 Erysipheae に屬する Uncinula 屬の特徵を有せり即ち現今の分類法に從へば之れを納むべき場所に苦しむ乃ち余は亞科 Phyllactineae 内に Uncinulopsis なる新屬を創定し本菌を之れ

至圓柱狀にして顆粒を充實し淡黃色に見ゆ單胞平滑にして大さ二八―三八×一五―二〇ミューあり此附屬器の特徵は明かに亞科Erysipheaeの Uncinula 屬に納むべきものにして既知Uncinula屬の種類に比較するに最も近親なるはU. polychaeto (Berk. et Curt.) Ellis.菌なりとす、今該菌に就て Tracy, Galloway及 Salmon の記する所と我種とを比較すれば

	菌糸層	子嚢殼	附屬器ノ數	子嚢ノ數	子嚢ノ大サ	子嚢胞子	子嚢胞子ノ數
Tracy及Galloway	葉裏	二五〇―三〇〇	二〇〇又ハ以上	五〇		二六―三〇×一二―一四	二
Salmon	ク	二二五―三三〇(二五五)	二〇〇(約)	三四―六六	七〇―八四×三〇―三六	二三―三〇×一三―一四	二―三(四)
澤田	ク	一八〇―二五〇	二〇〇又ハ以上	二〇―三三	六四―一〇八×二七―三九	二八―三八×一五―二〇	三

右表によりて之れを見ればSalmon氏の記する所とTracy及Galloway氏の記する所とは殆んど相一致し只子嚢胞子の數に差あるのみなり又我菌は附屬器の數に一致するも子嚢殼は著しく小形にしてそれに含まる子嚢の數も著しく少なく又子嚢及子嚢胞子は共に大形なり又一子嚢内に含まるる子嚢胞子の數に差あり、此一子嚢中に含まるる子嚢胞子の數に就ては Salmon 氏に從へば亞米利加產のものは常に二箇にして極めて稀に三箇又は四箇を含むことあり然れども三箇の場合は一箇は成熟せずして終り四箇の場合は總て不成熟なりとし又日本及支那產のものは常に三箇を含めども時に二箇を含むことありとせり卽ちSalmon氏が亞米利加產と日本及支那產とを一種となせしは此理由による而して臺灣產のものは日本及支那產と等しく常に三胞子を含めりSalmon氏のUncinula polychaeta に對する說及其特徵卽ち ,,Very distinct in the large perithecia—the largest in the genus—the closely crowded appendages, more or less attenuated upwards into the small closely involute apex, and the very numerous 2—3—spored

斜形棍棒狀時に彎曲せる棍棒狀をなし先端より基部に向ひ漸細し先端圓頭大さ四—八・五×三—三・五ミューあり

斯く本菌の內生菌糸は著しく發育して Phyllactinia corylea 菌の內生菌糸の單條にして海綿狀組織のみに止まり只一箇の吸器を生ずるとは全く其赴を異にしそれより猶一層進化せるものなるを知るべし。又氣孔附近に於ける表生菌糸に注意すれば氣孔を通じて表面に現はれたる菌糸は其外出直後數多の枝に分たれ其處に多くの擔子梗を生ず肉眼にて病斑を見たる場合群の密に集まれる見えをなすは之れが爲めなり、斯く內生菌糸も表生菌糸も共に發達するものにして多くの場合より觀察すれば先づ內生菌糸發育して後表生菌糸を生ずるものゝ如く思はる而して其發達程度は Phyllactinia corylea と Oidiopsis taurica との中間にあるものゝ如く思はる然れども其性質は亞科 Phyllactneae に納めざるべからざるものなり

此分生胞子時代は疑なく Salmon 氏の Phyllactihia corylea var. subspiralis に符合するものにして該菌は元印度に於て Dalbergia Sisso の葉上に發見せられしものなり

(乙)子囊胞子時代

子囊殼は必ず葉裏の菌糸層上に生じ群生す子囊殼は扁球狀にして直徑一八〇—二五〇ミューあり、子囊殼壁を構成する細胞は不明瞭なれども多角狀にして大さ一二—一八×一〇—一四ミューあり附屬器は子囊殼の赤道より上方に輪狀に配列し其數極めて多く普通二〇〇箇又はそれ以上あり斜上して生じ單條無色平滑中央に僅かに太く隔膜を有せず薄膜にして時に膠質の被を有するものありて頂端堅く卷けり長さ一三五—一七二ミュー直徑四—五ミューあり、子囊は叢生し一子囊殼內に二〇—三二箇を含む圓柱狀乃至卵狀長楕圓狀にして斜形をなすものあり基部に短又は稍々長き柄を有す無色薄膜にして常に三箇の子囊胞子を含み大さ六四—一〇八×二七—三九ミューあり、子囊胞子は卵狀長楕圓狀乃

大正五年五月發行

の基部は膝曲するを常とす卽ち我菌は子囊胞子時代に於てはUncinulaの特徴を有するとはいへ Uncinulaとは全く異れる分生胞子時代を有しUncinula 屬より勿論之れを含む亞科 Erysipheaより分離し亞科Phyllactineaに納めんとす

以上述ぶる如く我菌を亞科 Phyllactineaeに納むる場合に於ては此亞科内には之れを隷せしむべき屬なし乃ち余は之れにUncinulaの形態を有する意ありてUncinulopsisなる屬名を創定し種名としてはSalmon氏が分生胞子時代に與へたるSubspiralisを採用してUncinulopsis subspiralis (Salm.) Sawada. と命名せんとす

左に亞科、新屬及本種の記載を掲くべし

亞　　科　　Phyllactineae

表生菌糸は寄主表皮細胞に直接吸器を出さず然れどもそれより分たれたる分枝は氣孔を通じて寄主組織内に入り細胞間空隙に迷走しそれより組織内の細胞に吸器を送出す、擔子梗は表生菌糸より分出す

屬　　Uncinulopsis Gen. nov.

菌糸は表生及内生し内生菌糸は細胞間隙を通過して發育し葉肉細胞に吸器を出す、表生菌糸より擔子梗を垂直に分出す、分生胞子は單生にして棍棒狀をなし微細なる顆粒を含む、子囊殼は大形扁球狀にして多子囊を含む、附屬器は子囊殼の上位に無數に生じ頂端鈎狀をなす、子囊は長形にして數箇の子囊胞子を含む

種　　類　　Uncinulopsis subspiralis (Salm.) Sawada.

Syn. Phyllactinia corylea (Pers.) Karst. var. subspiralis Salm.

asci.”より推察すれば我菌は當然同種ならざるべからざる如きも如何に國の東西を異にすればとて一種の菌類に斯の如き差別を生じ得るものなるや否や、此點のみならず一子嚢殼內に含まるる子嚢の數は餘りに甚し猶子嚢殼は小形にして子嚢及子嚢胞子は大形なるに差あり卽ち我菌はU. polychaeta (B. et C.) Ellis. 菌とは異なるものなりと思考せざるを得す

以上記し來れる分生胞子時代及子嚢胞子時代により本菌の所屬を決定するに當り菌糸の寄生狀態によりて亞科の設立せらるる今日此所說に從はざるべからざるは言を俟たざる所なり、今Salmon氏の記する所の亞科 Phyllactineae の記載を轉寫すれば

Mycelium not sending haustoria into the epidermal cells of the host plant, but forming special branches of limited growth, which pass through the stomata into the intercellular spaces of the leaf. Each of these intercellular hyphae sends a single haustorium into the cells of surrounding tissue (spongy parenchyma.”)

とありて我菌の性質に近しとはいへ我菌を此亞科に納むるは稍々不當の觀なき能はず如何となれば本菌の內生菌糸は盛んに發達し柵狀組織に迄及ぼして多くの吸器を生ずればなり、更に之れを亞科 Oidiopsideaeと比するに內生菌糸の發育の盛んなる點に於ては互に一致するもOidiopsideaeに於ては內生菌糸より直ちに氣孔を通じて擔子梗を抽出し擔子梗は全く表生菌糸に關係なきを以て本菌を亞科 Phyllactineae に比するより猶遠き關係を有するものなるを知る、是に於て之れを熟慮するに或は我菌はPhyllactineae及Oidiopsideae との中間に位するものにして新に一亞科を建設せざるべからざる如きも寧ろ亞科 Phyllactineae の範圍を擴めて以て我菌を之れに納むるの是ならざるかを思はしむ、又他方に於て本菌の子嚢殼の附屬器は明かにUncinula屬に納めざるべからざる特徴を有するも Uncinula 屬の分生胞子時代は我菌のそれと全く異なり常に表生菌糸のみを有してそれより直接に表皮細胞內に吸器を穿入し且つ大部分の種類の擔子梗は表生菌糸の側方より分出せられ垂直に位置を保たるゝを以て擔子梗

同　同　大正二年十二月二十四日　澤田
同　同　大正三年十二月七日　藤黑
同　同　大正三年十二月十日　澤田
桃園廳霄裡庄　大正三年十月十七日　澤田
分布、日本、支那、印度及臺灣

Salmon, E. S.—On the variation shown bythe Conidial stage of Phyllactinia corylea (Pers.) Karst.
(Annales Mycologici. Vol. III. P. 493., 1905.)

Syn. Phyllactinia subspiralis (Salm.) Sawada.

Sawada, K. 臺灣總督府農事試驗場特別報告第九號七十五頁(一九一四年)

菌糸は葉裏に現はる白粉狀にして永存し小叢の密群をなす表生及內生菌糸を有す、內生菌糸は氣孔を通過せる菌糸によりて表生菌糸と聯絡し葉肉細胞間隙を迷走し無色隔膜を有し直徑四—七ミユーあり葉肉細胞に多くの吸器を出す、吸器は棍棒狀にして直乃至彎曲し大さ四—八•五×三—三•五ミユーあり表生菌糸は無色分枝し隔膜を有し直徑五—七ミユーあり擔子梗を上方より垂直に分出す、擔子梗は圓柱形にして長く基部螺旋狀をなし一—四箇の隔膜を有し大さ七五—二三〇×六—七ミユーあり頂に分生胞子を單生す、分生胞子は棍棒狀(頂圓頭)乃至卵狀紡綞狀(頂鈍頭)にして基部切斷形、無色、單胞、微細なる顆粒を充し大さ四九—九二×一五—二二ミユーあり

子囊殼は葉裏の菌糸層上に群生す黑色扁球狀直徑一八〇—二五〇ミユーあり二〇—三二箇の子囊を含む子囊殼壁を構成する細胞は多角狀にして大さ一二—八×一〇—一四ミユーあり附屬器は子囊殼の上方に輪狀に密生し其數極めて多く普通二〇〇又は以上に達し單條、無色、平滑、薄膜にして中央部稍々太し頂端堅く卷曲せり長さ一三五—一七二ミユー直徑四—五ミユーあり、子囊は圓柱狀乃至卵狀長橢圓狀にして斜形をなすものあり基部に著しき柄を有し大さ六四—一〇八×二七—三九ミユーあり常に三箇の子囊胞子を含む、子囊胞子は卵狀長橢圓乃至圓柱狀にして兩端圓頭顆粒を充實し大さ二八—三八×一五—二〇ミユーあり

エノキ(Celtis sinensis Pers.)の葉に寄生す

臺北廳頂內埔庄　明治四十四年四月二十五日　澤田

大正五年五月發行